

# BUNKYO

文教大学  
文教大学父母と教職員の会  
教職員の会  
北海道支部だより No.5  
(2018年7月23日)  
発行責任者；支部長 高橋 勇  
文教大学父母と教職員の会 HP  
<http://www.bunkyo.ac.jp/etc/fubokyo/>

## H30年度支部総会を行います

今年度の北海道支部総会と研修会を下記の日程で開催します。年度の総会の他、越谷キャンパス・湘南キャンパスそれぞれから教職員の方に来ていただいて、学生のように進路状況などについて話ししていただきます。大学や学生のように直接聞くことができる絶好の機会となります。お忙しいことと思いますが、ご都合を調整のうえ是非ご参加ください。

※9月2日(日) 12:00～15:00

ホテルライフオート札幌

札幌市中央区南10条西1丁目 中島公園前

011 (521) 5211

※10月7日(日) 12:00～15:00

釧路プリンスホテル

釧路市幸町7丁目1

0154 (31) 1111

<<内容>>

1.会食・自己紹介

2.支部総会

3.支部研修会

両キャンパスの近況、学生の様子、  
進路状況など

4.個人面談(在学生のいる保護者のみ)

\*両会場ともに、昼食を準備させていただきます。

## こんなキャンパスです～湘南編～

所在地は神奈川県茅ヶ崎市ですが、湘南台駅または茅ヶ崎駅からバスで20～25分のところにあり、小鳥の声が聞こえるなど、とても静かで自然豊かなところです。キャンパスはとてもおしゃれで、時々CMや映画のロケ地になるそうです。お子さんが在学のうちに、一度は訪れたいところです。

(裏面につづく)

### 「父母と教職員の会」

～同郷の父母・学生・卒業生の集まりの場～

大学生は、中・高校生と違い、休暇が多く、郷里にいる期間が多いわけです。

そんなとき、もちろん家庭でのコミュニケーションは行われているでしょうが、同県下の父母と学生が集まり、あるいは県在住の先輩も交えての懇談の機会をつくって、学生を守り、励ますような場をつくってあげたらどうだろう。そのためには、父母と教職員の会の県支部がそのお世話をします。

また長男・長女時代に、できるなら郷里で就職させたい。そんな場合、同郷の父母たちが力を合わせ情報を交換しあい、子どもたちの幸福を考えてやりたい。こうした考えは、父母の方々みんなの気持ちではないでしょうか。

そうしたコミュニケーションが旨く行われる組織があったらどんなにいいだろう—そういう発想から、ひたすら学生たちのためにと考えて生まれたのが、この父母と教職員の会です。(父母と教職員の会HPより)



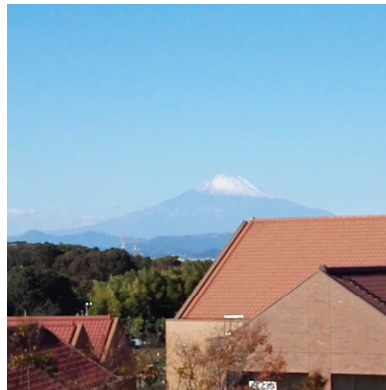
バスから降りると、林(?)の中を抜ける下り道。通ったのは朝だったこともあり、涼しく、とても清々しい空気でした。



バス停から歩きたどり着くのが、おしゃれなキャンパス入り口です。



このようなオブジェが、キャンパスのあちらこちらにあり、散策も楽しくなります。



昨年(2017年11月)の支部長研修会のとき、会場の5階からとてもきれいに富士山を望むことができました。

## 文教生活を振り返って

私が日本語日本文学科に入学しようと考えたきっかけは、昔から本を読むことが好きで、国語の教員を目指すと共に文学について深く勉強したいと思ったことでした。

とはいえ具体的な研究の対象が決まっていたわけではなく、大学に入学してからの二年間は、教員免許取得に必要な単位と共に様々な講義を受講し、広く知識をつけることを意識していました。その過程で、ある講義で取り上げられた志賀直哉の作品に興味を持ち、それをテーマとして卒業論文を書き上げる事となりました。

また、勉学のみならず、部活動の面でも様々な得難い経験をする事ができました。学科や学年の異なる仲間との交流は、大学生活において非常に良い刺激になっていたように思います。

私は現在、大学院へと進学し、文学から離れて教育学関係の勉強に取り組んでいますが、その生活の中でも、大学での研究や演習の経験、意識が活かされているように感じられます。様々な事を学び知識を蓄え、仲間や教職員の方々のサポートもあり、非常に良い環境で勉学に励むことができた四年間でした。

最後になりましたが、在校生の方々が、文教大学で興味や関心を持てるものを見つけ、充実した大学生活を送ることができるとお祈り申し上げます。

文学部日本語日本文学科・2018年3月卒業 高橋